オプティス、運転シミュレーションをスマート照明の中心に据えた VRX 2018 を発売

サンノゼ（米国カリフォルニア州）、2017 年 11 月 9 日/PR ニュースワイヤー/ --

新バージョンのバーチャルリアリティー向けソフトウェアにより、輸送業界は先進ヘッドライトシステムをバーチャルで試験、より高性能で安全な照明を顧客に提供することが可能に

仮想プロトタイピングのグローバル企業であるオプティス（OPTIS：http://www.optis-world.com/ ）は本日、AFS、ADB マトリックスビーム、ピクセルビームなどの先進照明システムの性能と動作をバーチャルで再現する最新バージョン運転シミュレーター、VRX 2018 を発表しました。この最新バージョンには OEM とそのサプライヤーに特化した新たな機能が含まれており、ピクセルヘッドライトの試験と検証、ヘッドランプの制御ロジック調整、IIHS（米国道路安全保険協会）試験のバーチャル評価を提供します。

ヘッドライトが高機能になるにつれ開発も複雑になり、より厳しい試験が要求されるため、エンジニアリング部門と試験コースで最終製品の照明性能を微調整するフィジカルプロトタイプが数台必要になっています。これらのシステムをプロトタイプのいくつものバージョンで試験するのには費用がかかり過ぎる上、実際の道路上では危険でもあります。これらに対抗するオプティスのバーチャルソリューションにより、輸送の OEM およびティア 1 サプライヤーは、天候、車や歩行者の流れなどリアルな交通状況を再現したバーチャルの試験コースで仮想プロトタイプを使って、自社のヘッドライトの性能を試験したり体験したりできるようになります。新製品には、視界とビジョンの質の双方を改善するようヘッドライトの制御ロジックを調整する機能もあります。

オプティス製品開発ディレクターのニコラス・オーランドは、「VRX 2018 があれば、OEM はあらゆる状況に適応した非常に定性的で高性能の照明を顧客と路上の全ての人に提供することができます。照明システムをバーチャルに試験し、制御ロジック機能を追加することで、安全と高品質に関するブランドの評価に基づくより安全な完成品が出来上がるとともに、市場までの時間を大幅に短縮することができます」

VRX 2018 は、IIHS 基準に沿ったヘッドライトシステムの評価も導入しました。今では照明システムの最適化や仮想プロトタイプの設定およびプログラムの制御が可能になったため、正確で完全な分析により今後 IIHS 評価のスコアを上げることとなるでしょう。

オーランドは、次のように述べました。「IIHS は最も影響力のある自動車評価の一つです。多数の自動車メーカーが 2016 年モデルに関して IIHS のヘッドライト試験で不合格になっているので、自動車メーカーが二度と消費者評価で不合格にならないよう、そして一流自動車としての地位を保証できるよう、オプティスはこれらの試験を念頭に置いて VRX 2018 を開発しました」

OPTIS について

(ロゴ: http://mma.prnewswire.com/media/554927/OPTIS_Logo.jpg)

情報源：オプティス

問い合せ先: Amber Richards、オプティスのアップローア PR、arichards@uproarpr.com、321-236-0102